

平成21年度動物実験倫理委員会報告

1)承認動物実験課題	総数	研究	教育
	50題	44題	6題

2)動物実験登録者	67名
-----------	-----

3)教育訓練出席者	50名
-----------	-----

4)使用実験動物	マウス	ラット	モルモット	イヌ	サル
	845匹	398匹	39匹	8匹	1匹

5)自己点検・評価	評価				
	5	4	3	2	1
①実験計画は適切でしたか	26	12	3	0	0
②実験計画に沿って研究または教育を遂行しましたか	29	6	4	0	2
③当初の目的を達成しましたか	21	11	7	0	2
④十分な成果が得られましたか	20	12	6	1	1
⑤実験動物に愛護の精神で接しましたか	35	1	2	0	0
⑥実験動物の飼養と保管を適切に行いましたか	35	2	2	0	0
⑦実験動物の健康管理を適切に行いましたか	32	4	2	0	0
⑧実験動物数の削減(Reduction)に努めましたか	27	9	3	0	0
⑨実験動物の苦痛軽減(Refinement)に努めましたか	31	5	2	0	0
⑩施設を適切に使用しましたか	31	5	3	0	0
⑪実験期間中、実験実施者の安全は確保されましたか	34	3	2	0	0
⑫この実験は総合的にみてうまくいったと思いますか	24	10	5	0	0
計	345	80	41	1	5
	73%	17%	9%	0%	1%

5:そう思う 4:どちらかといえばそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない

6) 研究成果

A 原著:

- 1) Imai A, Yoshie S, Nashida T, Fukuda M, Shimomura H. Redistribution of small GTP-binding protein, Rab27B, in rat parotid acinar cells after stimulation with isoproterenol. *Eur J Oral Sci* 2009; 117: 224-230.
- 2) Imai A, Fukuda M, Yoshie S, Nashida T, Shimomura H. Redistribution of Rab27-specific effector Slac2-c, but not Slp4-a, after isoproterenol-stimulation in rat parotid acinar cells. *Arch Oral Biol* 2009; 54: 361-368.
- 3) Nashida T, Yoshie S, Imai A, Shimomura H. Transferrin secretory pathways in rat parotid acinar cells. *Arch Biochem Biophys* 2009; 487: 131-138.
- 4) Kato C, Mikami M, Natsuno T. Macrophages contribute to the elimination of *Porphyromonas gingivalis* more strongly than neutrophils *in vivo*. *J Oral Biosci.* 2009; 51(2): 97-104.
- 5) 千葉朋義, 佐藤 聡. 自然発症2型糖尿病ラットの抹消血管の変化に関する研究, 日歯保存誌、53; 1: 15-24, 2010.
- 6) Satoh Y, Ishizuka K, Murakami T. Modulation of the jaw-opening reflex by stimulation of the vestibular nuclear complex in rats. *Neurosci Lett* 2009; 457: 21-26.
- 7) Satoh Y, Ishizuka K, Murakami T. Modulation of the masseteric monosynaptic reflex by stimulation of the vestibular nuclear complex in rats. *Neurosci Lett* 2009; 466: 16-20.
- 8) Aoyagi H, Tsuchikawa K, Iwasaki S. Three-dimensional observation of the mouse embryo by micro-computed tomography: composition of the trigeminal ganglion . *Odontology* 2010; 98: 26-30.
- 9) Shimomura-Kuroki J, Yamashita K, Shimooka S. *Tannerella forsythia* and the HLA-DQB1 allele are associated with susceptibility to periodontal disease in Japanese adolescents. *Odontology* 2009; 97: 32-37.

B 学会発表:

- 1) Ishizuka K, Satoh Y, Oskutyte D, Murakami T: Visceral and somatic inputs convergence on to the superior salivatory nucleus neurons in anaesthetized rats, 36th International Congress of Physiological Sciences, Abstract CD-ROM: P5AM-1-4, 2009.
- 2) 今井あかね, 梨田智子, 下村浩巳: イソプロテレノール刺激による耳下腺腺房細胞の Sec6 と Sec8 の相互作用について, *J Oral Biosci.* 51 Suppl.: 147, 2009.
- 3) 梨田智子, 吉江紀夫, 今井あかね, 下村浩巳: ラット耳下腺トランスフェリンのトランスサイトーシスにおける細胞骨格の役割, *J Oral Biosci.* 51 Suppl.: 147, 2009.
- 4) 三上正人, 加藤千穂美, 葛城啓彰: BCG 免疫効果と加齢 - *P.gingivalis* 感染時の滲出細胞におけるケモカイン及びレセプターの発現, 第 51 回歯科基礎医学大会, 新潟, 9 月 *J Oral Biosci.* 51 Suppl.: 134, 2009.
- 5) 鋤崎恵一, 土川幸三, 桑原 徹: マウス顎関節発生過程における I 型および II 型コラーゲン発現に関する免疫組織学的研究, *日口外誌* 55: 111, 2009.
- 6) 土川幸三, 桑原 徹, 山脇敏裕, 鋤崎恵一: マウス胎仔下顎頭発生に関する組織学的研究, *口科誌*

- 58(4); 291, 2009.
- 7) Nakamura K, Amanai T, Nakamura Y, Ito-Kuwa S, Aoyagi H, Mataga I, Aoki S: The 17th Congress of the International Society for Human and Animal Mycology Micro-CT analysis of experimental Candida osteoarthritis.
 - 8) 外山三智雄, Arayasantiparb Raweewan, 織田隆昭, 諏江美樹子, 亀田綾子, 佐々木善彦, 羽山和秀, 土持 眞: シェーグレン症候群における唾液腺シンチグラフィの動態曲線初期相と最大貯留係数、刺激分泌係数との関連, 第 18 回日本シェーグレン症候群学会, 博多市九州大学百年記念講堂 9 月 4 日 2009 年
 - 9) 外山三智雄, 織田隆昭, 佐々木善彦, 羽山和秀, 土持 眞: 唾液腺シンチグラフィにおける動態曲線初期相と最大貯留係数、刺激分泌係数との関連, 第 49 回日本核医学会総会, 旭川市文化会館, 10 月 1 日 2009 年
 - 10) Satoh Y, Ishizuka K, Murakami T: Effects of the vestibular nucleus stimulation on the jaw-opening reflex in the rat, 36th International Congress of Physiological Sciences Abstract CD-ROM: P4PM-13-9, 2009.
 - 11) 佐藤義英, 石塚健一, 村上俊樹: 前庭神経核刺激による咬筋単シナプス反射の変調, J Oral Biosci, 51, Suppl.: 150, 2009.
 - 12) Satoh Y, Ishizuka K, Murakami T: Effects of the vestibular nucleus stimulation on the masseteric monosynaptic reflex in the rat, Neurosci Res, 65, S1: S201, 2009.
 - 13) 佐藤義英, 石塚健一, 村上俊樹: 前庭神経核刺激による咬筋単シナプス反射の変調, 第3回三叉神経領域の感覚—運動統合機構研究会, 日本大学軽井沢研修所, 長野県北佐久郡, 2009年10月3, 4 日.
 - 14) 三上正人, 加藤千穂美, 葛城啓彰: BCG 免疫効果と加齢—P.gingivalis 感染時の滲出細胞におけるケモカインおよびレセプターの発現について, J Oral Biosci, 51(Suppl.): 134, 2009.
 - 15) 中原 貴: 「シャーレ上での器官形成: 器官再生法による歯根・歯周組織ユニットの形成」. 第51回歯科基礎医学会学術大会・総会(平成21年9月10日)
 - 16) 平 賢久, 新海航一, 鈴木雅也, 加藤千景, 加藤喜郎: 塩化カルシウム, 象牙質マトリックスタンパク質(DMP1)由来合成ペプチド(pA,pB)ならびにハイドロキシアパタイト配合接着性レジンシステムによるラット露髄面の直接覆罩効果 —添加物の配合量と創傷部治癒態度について, 日本歯科保存学会 2009 年度秋季学術大会プログラムおよび講演抄録集, 59, 2009.
 - 17) 羽下麻衣子, 野澤-井上佳世子, 前田健康: 抜歯による三叉神経節における神経栄養因子 mRNA 経日的発現変化, J Oral Biosci, 51 Suppl.: 99, 2009.
 - 18) 下村-黒木淳子: 骨改造現象に関わる骨代謝調節因子に関する研究, 第 47 回日本小児歯科学会大会奨励賞受賞講演, 第 47 回日本小児歯科学会大会, 大阪, 2009 年 5 月 15 日.
 - 19) 下村-黒木淳子, 山下一松田貴絵, 本間裕章, 田中聖至, 下岡正八: 小児における口腔疾患発症リスクの評価, 第 46 回日本小児歯科学会大会, 2009.5.14-15, 大阪, 小児歯科学雑誌, 47(2): 379, 2009.
 - 20) 鈴木見奈子, 富永徳子, 田巻友一, 井出吉昭, 立花利公, 大山晃弘, 中原 貴, 佐藤 聡, 石川 博, 又賀 泉: 舌に発生したきわめて稀な横紋筋肉腫由来の細胞株 NUTOS の樹立とその性状. 第 27 回日本ヒト細胞学会, 東京(8月22日)

- 21) 鈴木見奈子, 大山晃弘, 富永徳子, 中原 貴, 佐藤英明, 田中 彰, 石川 博, 又賀 泉: ヒト舌に発生した横紋筋肉腫由来の細胞株樹立とその性状. 第51回歯科基礎医学会学術大会・総会, 新潟市(9月10日)
- 22) 鈴木見奈子, 石川 博, 中原 貴, 大山晃弘, 佐藤英明, 田中 彰, 又賀 泉: 原発, 転移, 再発巣から樹立したサブクローンの抗がん剤感受性の多様性に関する検討. 第54回(社)日本口腔外科学会学術大会・総会, 札幌市(10月9日)
- 23) 鈴木見奈子, 石川 博, 中原 貴, 大山晃弘, 佐藤英明, 田中 彰, 又賀 泉: 酸素電極法を用いた原発, 転移, 再発巣における抗がん剤感受性の多様性に関する検討. 第47回日本癌治療学会総会, 横浜市(10月21日)
- 24) 鈴木見奈子, 石川 博, 中原 貴, 大山晃弘, 佐藤英明, 田中 彰, 又賀 泉: 舌横紋筋肉腫由来細胞株の樹立と性状に関する検討. 第28回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会(1月29日)
- 25) 大窪泰弘, 東理頼亮, 岡田康男, 廣安一彦, 山口 晃: インプラント2次手術におけるCO₂レーザーを用いた歯肉切除組織の病理学的検討, 第2回日本歯科大学生命歯学部におけるレーザー治療研究会, 2009年7月1日.
- 26) 山口 晃: レーザーの口腔外科疾患への応用, 第9回日本歯科用レーザー学会総会・学術大会, 新潟市, 2009年9月5日.
- 27) 馬場玲子, 江面 晃: 実験的骨粗鬆症における雄ラットの下顎骨に関する研究, 日歯保誌, 2009年度春季学術大会(第130回)プログラムおよび講演抄録集, 218, 2009.